

いわき民報

発行所 いわき民報社
平市由四八番路一七六号
編集発行人 千原寛
印刷所 但月閣
日刊 但月閣
定価 一月十円 一年九十円

平市には総合病院を 県炭協が鑛業會とタイアップで

ヤマを働くもの、業關たらしめようと新住宅の建設がつけられ、名物ハ
ーモニカ屋の解消に努めているが、この度更に悩みの種である鑛業問題
について縣炭協では鑛業連盟と話し合いの上、病院をもたない中、小炭鑛従
業員のため健康保険組合連合會を結成、平市に総合病院を建設すること
に植田、勿來、内郷、好間、赤井及び双葉の六地區に炭鑛病院を建設す
こととし、鑛業會を開いて具體案を作成することになった。なお建設費は
勞資双方から出し合うこととする計が、非常な期待されている。

四倉町の夏季大學 間宮茂輔氏等招いて松漢會が

四倉町松漢會では町の後援を
得て來月四日より八日まで五
日間、同町小學校講堂に夏季
大學講座を開講する。講師お
よび演題左のとおり。
○四日 藝術論 作家 間
宮茂輔氏
○五日 宗教問題 宗教学者 山崎省吾氏
○六日 労働問題 合作社
中央委員長 杉山謙三氏
○七日 沿岸氣象 中央氣象
台 伊坂謙三氏
○八日 對策 政治評論家
夫氏

平市の御巡幸 泰迎委員成る

天皇陛下の御巡幸にもとづく
市會協賛會は二十五日午前十
時から公會堂日本間に招集
奉迎の萬全を期するため御
巡幸泰迎委員會を結成、委員
長に鈴木市長を推した。なお
一般市民の泰迎増進と泰迎
の服装、御進物の清潔美化な
らびに救護設備等について
も種々協議を行った。役員左
のとおり。
△委員長 鈴木市長
△副委員長 平市長 鈴木辰
三郎 副委員長 平市會議
長 金子政通 同 平市助
役 岡部治英 △總務部長に
平市會副議長 松本金市郎
△合組される事になった。お

牛下町に返上 市役所も同様

他官廳も同様が
平本や東部石炭鑛業會館で官
牛下町返上論が上りのり
議までしている折柄、みず
牛下町も出まると平市
所屬組では二十六日午下
返上を決議、二十八日から午
前八時から午後四時まで従前
どおり執務することになった
市の職組内部でもいまだ牛
半下町でもあるまいと返上
論は出たもの、牛下町にお
役人にこたへられた特權と
ばかりを主張して正午に
退職していたが、市民に不
便を妨げは公儀として申
渡す、と二十六日午前各課
主任が、二十六日午前各課
主任がこたへたもの、な
半下町に返上されて市内

小名濱建保組合議決 早急に診療所建設

小名濱町國民健康保險組合で
は二十五日午後一時より議員
總會を開き別項の如き理事改
選及び二十一年度決算及び二
十二年度決算案を決定した
が、診療所の設備計が十分
ではないとの際、補助金が二
分の一あるの完全なものを選
定、問題の保険料は診療所建
設後納入する方針で進ん
でいくこととした。

水田二毛作 立毛品評會

水田二毛作 一毛作は
立毛品評會 一毛作は
水田二毛作 一毛作は
立毛品評會 一毛作は
水田二毛作 一毛作は
立毛品評會 一毛作は

値段は三十五円六〇銭、なお
配給券は町内一括になるべく
ならしてほしいとある。又お
盆用の特配酒も近く配るとい
うから、こトチヨと呑めると
いうもの。
小作から一躍
地主様になり
小名濱の買渡し決る
小名濱町農地委員會では田畑
四千八百歩の買渡耕地に對し

平夕堂々快勝

マ元帥杯争奪東北豫選大會
盛岡市3-2 仙台市
平市4-1 盛岡市
☆決勝戦
平市4-1 盛岡市
☆川村善男中
坂本文成中 4-1 渡邊 清樹
木村照子中 4-0 金澤ヤニ中
若松富子中 4-0 藤川敦子中
小川 亨中 4-1 藤澤三郎
志賀金七郎中 4-1 藤澤三郎
大内秀次郎中 4-1 藤澤三郎
木崎 美明中 4-1 藤澤三郎

お酒の配給

六、七月分を
お酒の配給 六、七月分を
お酒の配給 六、七月分を
お酒の配給 六、七月分を

見習い工員募集

印刷見習い工員 五名
男女何れにても可、年齢十四才以上十七才未満の女學校出
は特に優遇す
希望者は履歷書持本人來社されたし
平市町四八
いわき民報社

棧附窓硝子(本物)販賣

透明、曇り、寸法ソノ他御希望ニ應ジ調整
御小資共多少ニ拘ラズ御用命下カ
見本在社
平土地住宅有限會社
電話 〇九二番 九二番

小作から一躍 地主様になり

小名濱の買渡し決る
小名濱町農地委員會では田畑
四千八百歩の買渡耕地に對し

